

## 天気晴朗なれども浪高し（1）

今から107年前（1905年）の5月27日から翌28日にかけて、日本海の対馬沖では日本の連合艦隊とロシアのバルチック艦隊による熾烈な戦いが繰り広げられました。

この戦闘において連合艦隊は、東郷長官の指揮の下ロシア艦隊を撃滅する一方、連合艦隊の損害は極めて軽微という一方的な勝利を日本にもたらしました。後世、これを「日本海海戦」といいますが、この戦いにおける日本の一方的勝利は、「ポーツマス講和会議」への道を開くことになったという意味でも特筆すべきものです。

5月27日未明、九州西方海域において索敵していた信濃丸がバルチック艦隊を発見し、旗艦三笠に対して「敵艦見ユ」と一報を入れます。

当時、バルチック艦隊がどのような航路をとってウラジオストクへ向かおうとしているのかは、大問題でした。想定される航路は対馬海峡経由、津軽海峡経由、そして宗谷海峡経由ですが、万が一、バルチック艦隊の捕捉に失敗し、そのままウラジオストクに入られた場合には制海権確保が困難になり、それは同時に、満州に展開する日本軍への物資輸送にも困難を来し、大陸での日本軍の敗北は必至でした。

ジリジリする時間が過ぎる中、遂に信濃丸からの一報によって、連合艦隊は対馬海峡で敵を待ち受けることが出来たのですが、もしもバルチック艦隊の発見が1日遅れたら連合艦隊は北海道に向かっていたかも知れず、その場合には日露戦争そのものの帰趨は全く違ったものになった可能性があります。

信濃丸から一報を受けた三笠は、大本営に対し「敵艦隊見ユトノ警報二接シ 聯合艦隊ハ直チニ出動、コレヲ撃滅セントス。本日天気晴朗ナレドモ浪高シ」と打電します。

「本日天気晴朗ナレドモ浪高シ」という一文は秋山参謀の筆になるもので、美文といわれていますが、この一文について、作家の司馬遼太郎氏は、「天気晴朗」というのは視界が遠くまで届き、敵を取り逃がすことはないということを濃厚に暗示しており、「浪高シ」という物理的状況は、射撃訓練の十分な日

本側の方に利し、ロシアの軍艦において大いに不利である。従って、「本日天気晴朗ナレドモ浪高シ」という状況は、「きわめて我が方に有利である」ということを、この一句で象徴したのである、と述べています（司馬遼太郎著「坂の上の雲」から）。

5時過ぎ、連合艦隊に出動命令が下され、遂に、バルチック艦隊との決戦の火蓋が切られます。この時、旗艦三笠の艦上に掲げられたのが「Z旗」です。この「Z旗」は、イギリスのネルソン提督が1805年のトラファルガー海戦の時に初めて用いたと云われており、日本海海戦においても、これに倣い掲揚したといわれています。

その意味するところは、「皇国の興廃此の一戦に在り、各員一層奮励努力せよ」というものですが、まさに日本海海戦は、日露戦争の帰趨を決める極めて重要な一戦となったのです。＜続く＞（塾頭 吉田 洋一）